

2024年11月3日

「神のものは神に」

マタイによる福音書 22:15-22

早川 真牧師

イエスはここで、税金を納めるということは、自分自身がローマ帝国のものであるというわけではなく、ただローマ帝国の造ったお金をローマ帝国に返していることに過ぎないということを示しておられます。では、私たちの体はどうでしょうか。私たちの体は、自分で作ったものでも、代価を払って買ったものでもありません。そうであるなら、それは作った方である神様のものではないでしょうか。

神は人間に自由意志を与えました。その結果、人間は神の元を離れたと聖書は語っています。神は、本来自分のものである人間を、再び神のものにするため、代価を払って人間を再び買い取られました。その代価がイエス・キリストの命です。イエス・キリストが十字架で流してくださった血は、神がご自分の造られた人間を再びご自分のものとするために払った犠牲でした。

イエスの時代、人々がローマによる平和を受けるためには、皇帝のものは皇帝に返す必要がありました。私たちは神のものを神に返す時、神の平和を受けます。もし私たちの任されているものが自分のものだと思っていたら、責任は自分で取らなければなりません。しかし、私たち自身が神のものであることを認めるならば、最後は神様が責任を取ってくださるという平安の中で物事を委ねられます。

これは、私たちの責任を放棄するということではありません。私たちが地上で負うべき責任はありつつも、神が私たちの責任を最終的に負ってくださるということです。この真の平和、心の平安を与えてくださっている神に、心からの感謝と賛美をささげてまいりたいと思います。